

6. 母と子の保健に関する状況

6-1 父親の育児参加状況と育児協力の内容

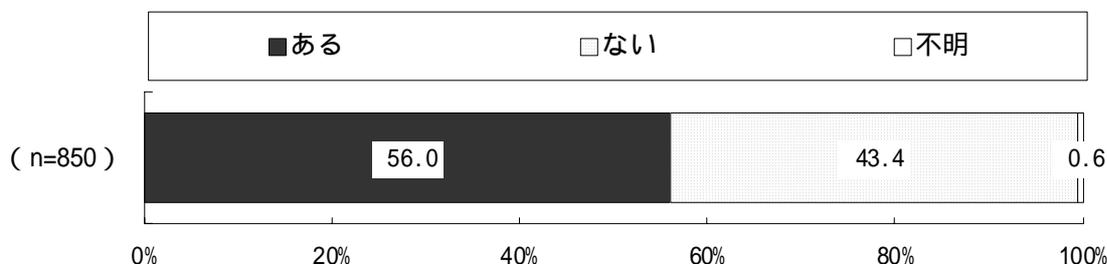
〔 乳幼児健診受診児の保護者調査実施中 〕

6-2 産後の母親の心の健康

産後はホルモンバランスの変化などから、情緒不安定になりやすく、気分が沈む、不安感や焦燥感にとらわれるといった「マタニティブルーズ」の出現率が30%といわれています（中野仁雄「妊産婦の精神面支援とその効果に関する研究」平成6年度厚生労働省心身障害研究報告書）。さらに症状の重い「産後うつ病」の出現率も12～17%とされ（北村俊則「妊産期におけるうつ病出頻度とその危険要因」平成8年度厚生労働省心身障害研究報告）心の健康支援が必要な時期です。

新宿区次世代育成支援に関する調査（H20年）では、産後半年間に気分が落ち込んだことがある母親が56.0%となっています。また、子育てが辛いと思ったことのある母親は、いつも思う（3.3%）と、ときどき思う（44.5%）を合わせて、47.8%と約半数にのぼっていますが、平成15年度調査の57.5%に比べると9.7ポイント減少しています。

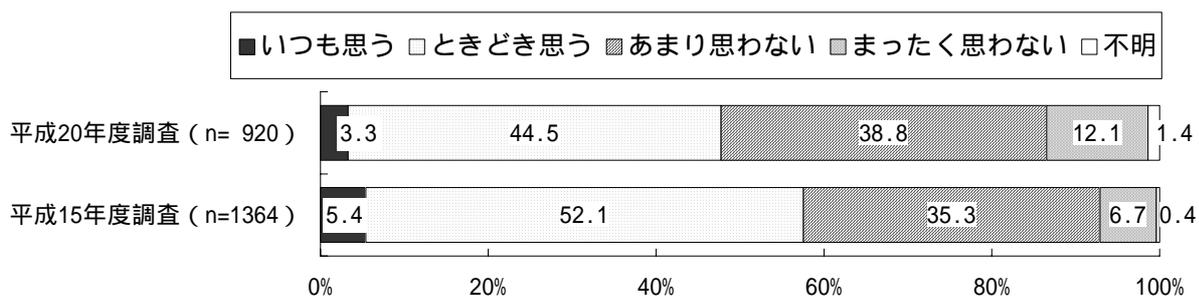
【 産後半年間に気分が落ち込んだことの有無 】



n = 850

出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査（未就学児童の保護者調査）」平成20年

【 子育てが辛いと思ったことの有無 】



出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査（未就学児童の保護者調査）」平成20年

6 - 3 子どもの食をとりまく状況

離乳食・幼児食で困ったこと

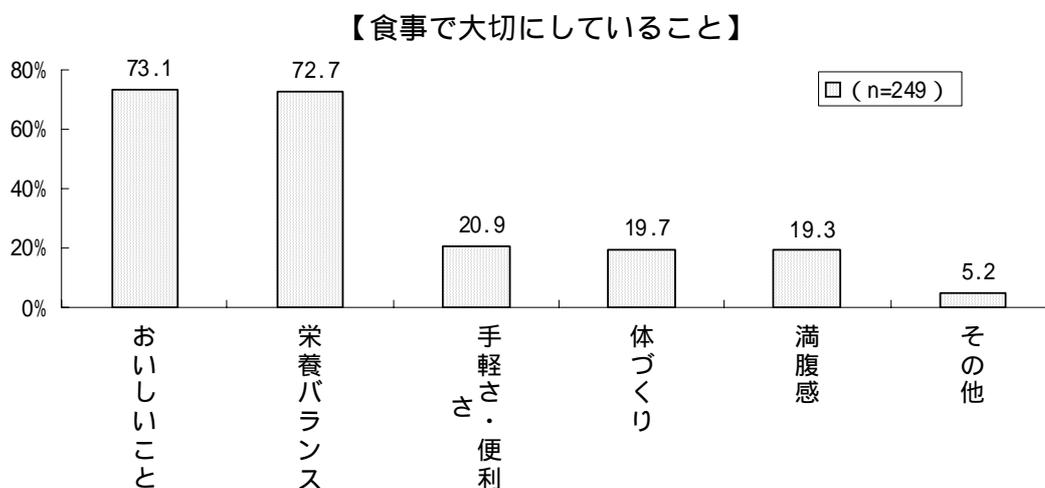
厚生労働省「H17年度乳幼児栄養調査」では、離乳食で困ったことがある人が62.5%あり、その内容は、「食べものの種類が偏っている」28.5%、「作るのが苦痛・面倒」23.2%、「食べる量が少ない」20.6%となっています。1歳以上の子どもの食事で困っていることがある人は86.9%で、その内容としては、「遊び食い」45.4%、「偏食」34.0%、「よくかまない」20.3%の状況です。

子どもの食べ方への不安

平成20年度に、新宿区の保健センターの歯科相談で実施したアンケート調査では、あまりかまずに丸飲みする、時間がかかる、好き嫌いが多いなど、子どもの食べ方に不安がある保護者は1歳児で55.8%、2歳児で55.0%となっています。

食事で大切にしていること

新宿区次世代育成支援に関する調査（H20年）の中で、18～34歳区民を対象とした調査では、食事で大切にしていることは、「おいしいこと」が73.1%、「栄養バランス」が72.7%と高く、順位の3番目に「手軽さ・便利さ」が20.9%となっています。



出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査（青少年の日常生活と意識に関する調査）」平成20年

6 - 4 子どもの死亡原因

全国の子どもの死亡原因を年齢階級別にみると 1～14歳までは不慮の事故が最も多くなっています。1～4歳児の死亡の18.0%、5～9歳児の死亡の27.2%が、不慮の事故で大切な命を失っている状況です。

事故の内容は1～4歳では、交通事故、溺死、窒息が多く、5～9歳と10～14歳では、いずれも交通事故、溺死、火炎が多いところとなっています。

【年齢階級別の人口、死亡数、最も多い死亡原因とその割合】

年齢階級	人口	死亡数	最も多い死亡原因とその割合
0歳	1,082,000人	2,828人	先天性奇形・染色体異常等(37.0%)
1～4歳	4,297,000人	981人	不慮の事故(18.0%)
5～9歳	5,823,000人	552人	不慮の事故(27.2%)
10～14歳	5,936,000人	534人	不慮の事故(23.2%)

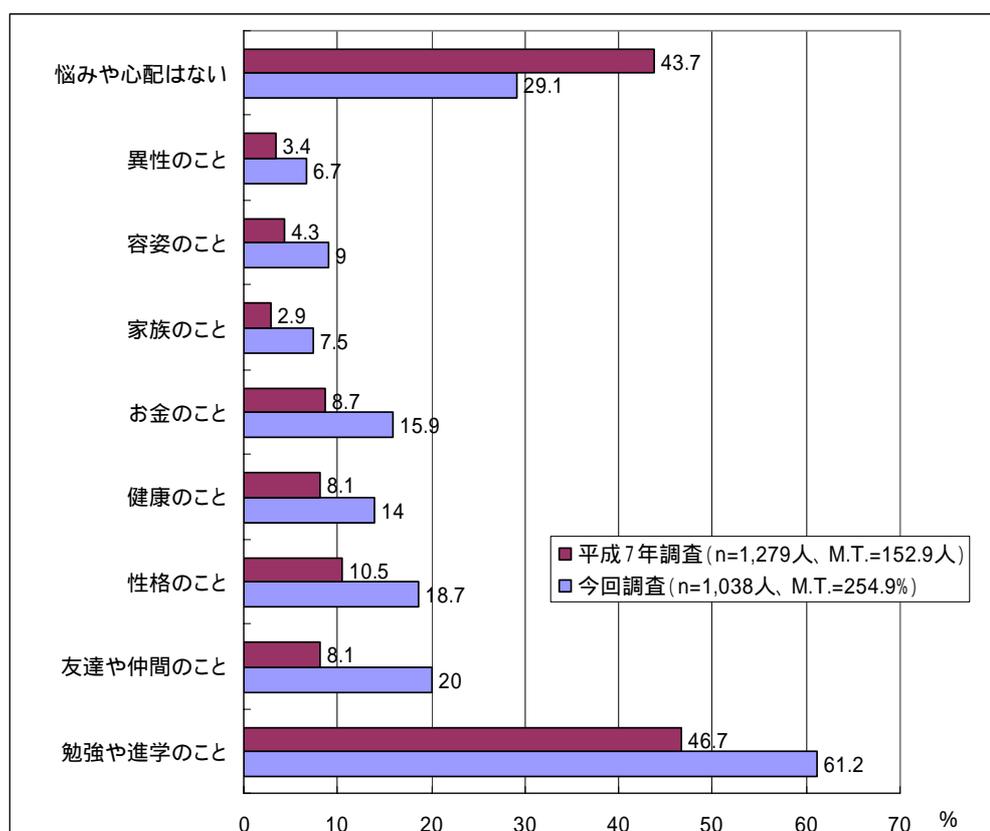
出典：H19年全国人口動態調査統計

6 - 5 子どもの心の健康

H18年度の全国的な中学生の調査では、悩みや心配がないと答えた中学生が29.1%で、H7年度調査の43.7%に比べ約15ポイント減少しています。悩みや心配を持っている中学生が増えて、7割を超えていることとなります。

悩みや心配は「勉強や進学のこと」が最も多く、次いで「友達や仲間のこと」、「性格のこと」であり、各々、平成7年度に比べ増加しています。

【悩みや心配がある中学生の割合】（複数回答）



出典：H18年低年齢少年の生活と意識に関する調査（内閣府）

6 - 6 思春期の性感染症等の状況

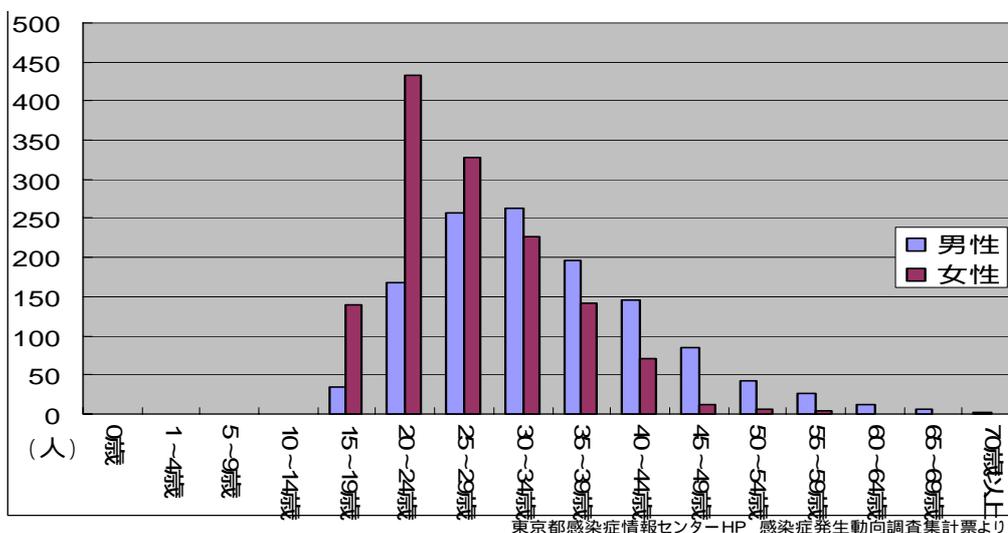
性感染症の罹患状況

平成20年の東京都定点医療機関(1)からの報告数によると、20代の性器クラミジア感染症が多い状況で、10歳代でも感染者がいます。

また、東京都のHIV(2)年齢別感染者数年次推移統計においても10歳代の感染者がみられ、20歳代より急増していることより、性感染症予防が大切なところです。

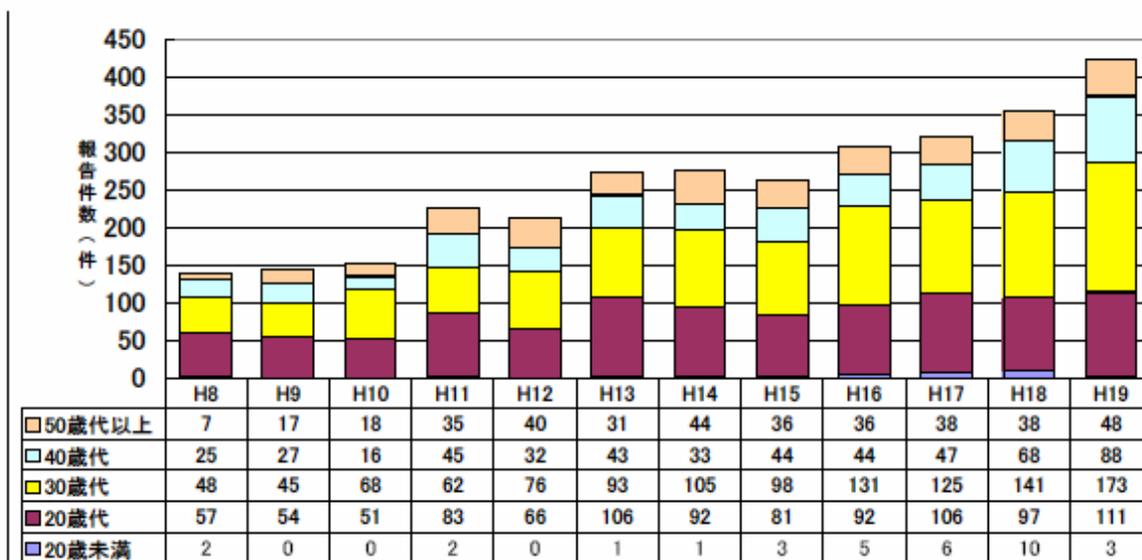
2 HIV:人免疫不全ウイルス

【性器クラミジア感染症 2008年男女別東京都定点報告数】



- 1 定点医療機関：感染症の発生状況を知るために一定の基準に従って情報を報告する医療機関のこと。医療機関の中から、保健所管内の人口に応じた数の定点医療機関を無作為に選定している。

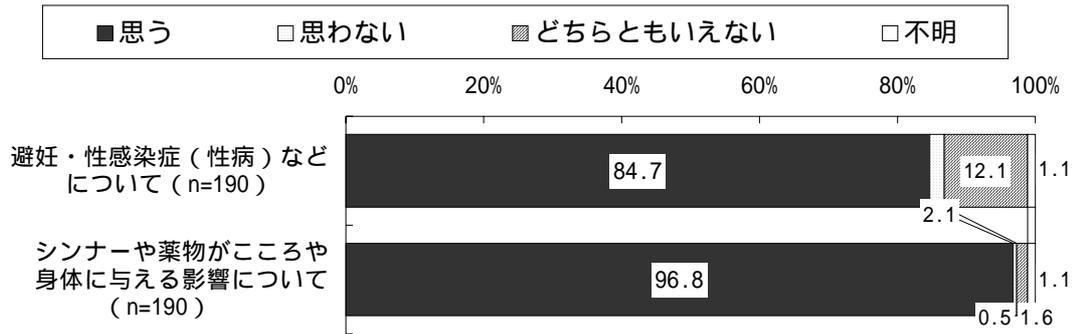
【東京都の年齢別 HIV 感染者数年次推移】



学校での性や薬物に関する教育の希望

新宿区次世代育成支援に関する調査（H20年）の中で、中学生保護者を対象とした調査では、「避妊・性感染症（性病）など」や「シンナーや薬物がこころや身体に与える影響」を学校で教えてほしいと思うかという質問について、「思う」がそれぞれ84.7%、96.8%と、非常に高い割合となっています。

【学校での性や薬物に関する教育の希望の有無】中学生保護者



n=190

出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査（中学生の保護者調査）」平成20年